

肥銀キャピタル DX計画

2026年7月17日

肥銀キャピタル株式会社

目次

- 代表メッセージ
- D Xビジョン
- D X戦略
- D X推進体制
- 人材・IT環境整備
- 指標

代表メッセージ

当社を取り巻く外部環境は、人口減少や人手不足、事業承継問題の増加、顧客ニーズの多様化に加え、生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展により、大きく変化しています。また、重点領域としている半導体、医療、エネルギーの分野においても、外部要因が大きな影響を与えています。このような環境下で、地域企業に対する投資・経営支援・事業承継支援に求められる役割も高度化しており、こうした変化に迅速かつ的確に対応することが当社の重要な使命です。

一方、内部環境では、案件管理や知見蓄積の属人化、会議記録や顧客接点情報の活用不足、ITリテラシー向上、人材育成、人事評価制度の整備などの課題があります。当社はDXを単なるデジタル化ではなく経営改革そのものと位置づけ、CRM活用、AI議事録、データ分析、生成AI活用導入を通じて業務高度化と組織基盤強化を進めるとともに、半導体、医療、エネルギーといった重点領域を含む諸分野に、これらの技術を活用したソリューションを提供することで、地域経済の持続的発展に貢献してまいります。

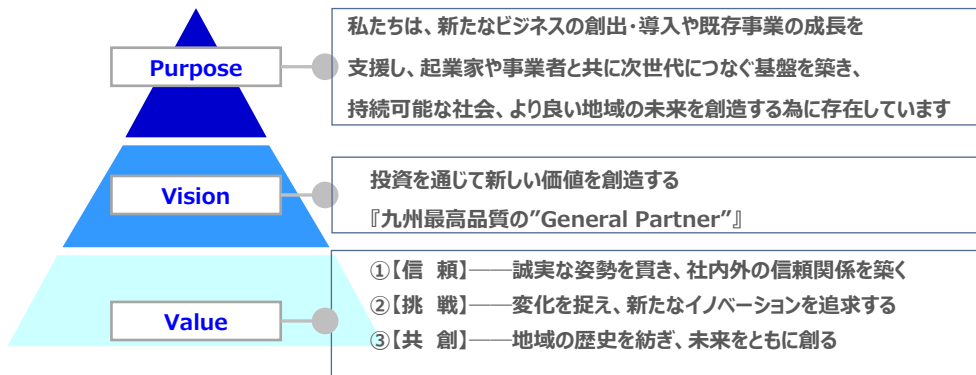
当社は「投資×デジタルで地域産業の未来を創る」というDXビジョンのもと、地域社会の課題解決に取り組み、持続可能な未来を共に築いてまいります。



DXビジョン

「投資×デジタル」でより良い地域の未来を創造する

パーパス・ビジョン・バリュー



DXの方向性

- 投資業務の高度化・効率化
- 投資先支援・地域企業支援の高度化
- ファンド運営・経営管理の可視化
- DX人材・業務改善文化の定着

D X 戦略

1 投資候補先・投資先情報の一元管理

投資候補先、投資先などの面談履歴、案件進捗、対応タスク、支援内容、活動履歴などを、組織として共有・活用できる仕組みを整備します。当社の投資業務に必要な情報項目、管理方法、運用ルールを整理します。そのうえで、既存ツールの活用や必要に応じたシステム高度化を検討し、対応漏れや情報共有不足を防止します。

2 AI議事録の活用・高度化

営業面談、案件協議、社内の定例会議、投資先との会議など、重要なミーティングにおいてAI議事録ツールを活用し、会議記録の作成負担を軽減します。現在利用しているAI議事録ツールを活用し、音声記録、文字起こし、要約、論点整理、アクション項目の抽出などを行うことで、議事録作成に要する時間を削減します。また、会議で確認された論点、対応事項、リスク事項などを整理し、投資先支援の記録に反映する運用を検討します。これにより、会議記録の散逸を防ぎ、組織内での情報共有とナレッジ蓄積を進めます。

3 投資検討初期段階におけるAI活用

投資候補先の初期検討において、生成AIやデジタルツールを活用し、情報収集、資料確認、論点整理を効率化します。受領資料の整理、不足情報の洗い出し、業界情報の要約、財務・事業計画の確認ポイント抽出、面談時の想定質問整理などに活用し、担当者の負担軽減と検討品質の向上を図ります。なお、AIは投資判断を代替するものではなく、担当者が内容を確認することを前提とします。

D X 戦略

4 投資先支援におけるデジタル活用

当社自身がデジタルツールやAIを活用して業務効率化を進め、その過程で得た知見を投資先や地域企業への支援にも活用します。投資先に対しては、事業計画策定支援、経営課題の整理、業務改善策の提案、経営管理資料の作成支援などにおいて、生成AIやデータ活用のノウハウを活かします。これにより、資金提供にとどまらない伴走支援を高度化します。

5 ファンドごとのポートフォリオ管理の可視化

ファンドごとの投資先情報、地域、業種、投資ステージ、投資金額、業績進捗、支援状況などを整理し、ポートフォリオ全体の状況を把握しやすい管理体制を整備します。まずは既存データの整理と管理項目の標準化を進めます。これにより、各ファンドの状況、投資先の偏り、事業進捗、支援が必要な先などを把握しやすくし、ファンド運営に関する社内協議や経営判断の質を高めます。将来的には、ファンド運営に関する報告資料やモニタリング資料の作成効率化にもつなげ、より戦略的なファンド運営を支える基盤を整備します。

6 投資先モニタリングとファンド運営の高度化

投資先の業績変動、経営課題、支援状況などを継続的に把握し、必要な対応を早期に検討できる体制を目指します。高度なアラート機能や自動化を一度に導入するのではなく、まずは投資先ごとに確認すべき項目を整理し、モニタリングを標準化します。そのうえで、定例報告資料の作成効率化、追加支援先や出口戦略の検討にデータを活用します。

DX戦略

7 生成AIの活用による日常業務の効率化

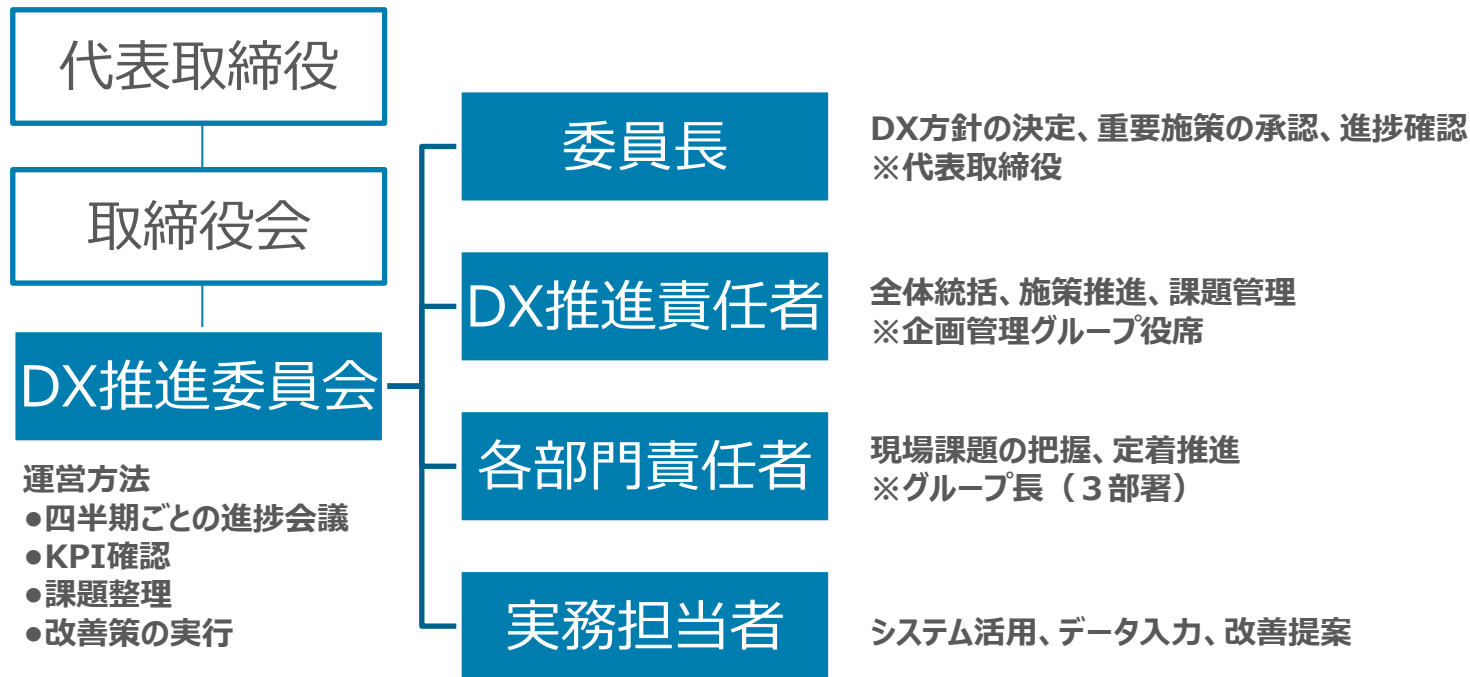
セキュリティに配慮した法人向け環境で生成AIを活用し、日常業務の効率化とアウトプットの質向上を図ります。社内文書の作成、業界・競合調査、長文資料の要約、会議の論点整理、面談準備、投資検討資料のたたき台作成、投資先向け支援資料の作成補助などに活用します。これにより、定型的な作業時間を削減し、社員が付加価値の高い業務に集中できる環境を整えます。

8 DX人材の育成と業務改善文化の定着

DXを継続的に推進するため、社員のデジタルリテラシー向上と業務改善意識の定着に取り組めます。AIやデジタルツールに関する勉強会、社内外研修、ITパスポート等の資格取得推奨、生成AI活用事例の共有などを行います。また、個人目標管理や改善提案の取り組みとも連動させ、各社員が自らの業務でデジタル活用や業務改善を実践する仕組みを整えます。

DX推進体制

DX推進委員会を中心に当社DX計画を推進していきます。



人材・IT環境整備

DX計画を支える「人材」「IT環境」「セキュリティ」を整備していきます。

人材

- 社員向けDX基礎研修
- データ活用研修
- AI・生成AI活用研修
- IT関連資格の取得推奨
(ITパスポート、生成AI/パスポート他)

I T 環境

- 投資先情報管理基盤の整備
- AI議事録活用・高度化
- クラウド共有環境充実・整備
- 生成AI環境整備
- ポートフォリオ管理の可視化

セキュリティ

- アクセス権限管理
- 端末管理
- 情報セキュリティ教育
- AI活用ルール明確化

指標

下記指標を目標にDX計画を推進していきます。

指標	目標
DX推進指標の改善	現状比+1.0Pt
投資検討案件の進捗可視化率	100%
DX関連勉強会・研修の開催件数	年4回以上
業務改善・D X 関連提案件数	年10件以上